

「株から見えた社会」

青山学院中等部 三年 二瓶 叶大

「株」この言葉を聞いて、すぐに説明できる中学生がどのくらいいるだろうか。青山学院では三年生になると様々な科目の選択授業の中から一つ、受講することができる。わけも分からず、ちょっとした興味だけで経済の授業をとった。

初めての授業のときはとても緊張し、自分が場違いなところに来てしまった感じがした。なぜ、授業で緊張するのか。それは、僕が株の仕組みさえよく分かっていなかったからだ。

そんな僕に最初の壁が立ちはだかった。それは、株とは何なのか、だ。株の事自体分からず、どうやって株式学習ゲームを進めていけばよいのかさえも分からなかった。そこで、祖父母は株にとっても詳しいため、どの株を買えばいいかなどたくさん聞いた。祖父母はとても親身になって考えてくれ、なんだからうれしそうだった。

しかし、早くも次の壁にあたった。株を売買することで、どうやって儲けるのかだ。今となっては初歩的な事だが、素人の僕には不思議だった。しかし授業を受け、株の売買を積み重ねるごとに、徐々に仕組みが分かるよう

になり、楽しくなってきた。毎週水曜日の選択授業の時間がとても待ち遠しいものとなった。今となっては二百万も儲けることができ、クラスで一位になることができた。次は、儲けることではなく、どうやって維持していくかを真剣に考えている。安定した業績の企業の株を買い、一位を独占し続けるか。この二百万でさらに賭けてみるか、など。今は守りに入っているが、卒業までにもう五十万円儲けることを目標としている。ギャンブル的な一面もあると思うが、個人のためでなく、全体のため会社の支えとなっている株は、ギャンブルとは違うと思う。また、順位が出ることで友達との競争心も湧き、株の違った楽しさもあじわえた。全国で二十一位になったときは、家族で大喜びしたほどである。

次は株式学習ゲームの内容についてだ。自分が応援したい企業を一つ選んで調べる課題で、僕は伊藤園について調べ始めた。普段の様子からでは分からない、様々な活動を行っているのが分かってきた。自分が調べた企業がどのように発展するか、をプレゼンテーションする課題が出された時は精一杯取り組んだ。特に情報収集に力を入れ、社員用の雑誌を入手し、活用した。また、プレゼンテーションに与えられた時間も十分間と長く、どうしたら聞き手を飽きさせないか、とても悩んだ。就職し社会人になったとき生かされるような活動ができたことは、とても良い経験となっ

た。

この株の学習を進めていくうちに、より積極的に取り組んでいこうとする自分がいた。先日、伊藤園について調べた中で、疑問に思ったことを、直接学校に来て説明していただけないだろうか、ということをお願い合わせてみたのだ。面識のない一般の企業の方と話をするのは初めてで、緊張で声が震えてしまった。たった数分で、自分の気持ちを伝える難しさを改めて知った。伊藤園の広報部の方は、スケジュール的にはとても難しいが、これから社会を担っていく子ども達に、少しでも力になれば、ということで、前向きに検討していただいているという事を後で聞いた。これからの日本社会のことを本気で考えている企業なのだ、と胸が熱くなった。

最後に、このゲームを通じて、社会の事が少し分かったような気がする。特に、企業の成り立ちや株の仕組みは、友達に説明できるようになるまでになったと思う。また、毎晩ニュースをみるのが習慣となり、朝日新聞の天声人語も必ず読んでいる。今では、メディアからの情報収集がとても楽しいものとなり、自分から積極的に行っている。経済の授業を通して学んだことは、将来社会に出たとき、必ず役立つと思う。また、株式学習ゲームを通じては、経済だけでなく、企業理念にもふれることができ、とても有意義な活動だった。

僕が思う「株」とは、その会社を運営し、育てていくという事だ。僕が大人になったときは、ぜひ、株を買ってみたい。